

これら群馬県と埼玉県からの記録のほか、静岡県からも知られているが(静岡県環境森林部自然保護室, 2005), 現在まで本州以外からは発見されていない(柴田ほか, 2013). 中国地方ではこれまでいずれの県からも知られていなかったが, 筆者は最近になって岡山県において本種を見出したので, 次の通り記録する.

13 exs., 岡山県新見市神郷高瀬 (alt. 500 m), 28. VII. 2019, 筆者採集.

標本は筆者が保管しているが, 一部は倉敷市立自然史博物館および庄原市立比和自然科学博物館にて保管される予定である.

前述の通り四国・九州から知られておらず, これまで中国地方の各県からも記録が無かったことから, 今回発見された産地は現時点での西限となると考えられる.

今回得られたすべての個体は, オオヨツスジハナカミキリやアオハナムグリなどの甲虫類やアブやハエなどの双翅類, ハナバチ類などと共にリョウブのスイーピングによって採集されたものである. Kishimoto (2002) の例ではヤマアジサイから採集されていることを鑑みると, 本種は夏期に開花する様々な花を利用している可能性が示唆される.

最後になったが, 本種発見のきっかけとなった自然観察会を企画・運営された倉敷市立自然史博物館友の会のスタッフの皆様には厚くお礼申し上げる.

#### 引用文献

- Kishimoto, T., 2002. A redescription of *Omoplandria gyrophaenula* (Sharp) (Coleoptera, Staphylinidae, Aleocharinae). *Nabesania, Special Bulletin of the Japanese Society of Coleopterology Tokyo*, (5) : 221–226.
- Sawada, K., 1977. Studies on the genus *Atheta* Thomsom [sic] and its allies (Coleoptera, Staphylinidae). III: Japanese species described by the previous authors. *Contributions from the Biological Laboratory, Kyoto University*, 25: 171–222.
- SeEVERS, C. H., 1978. A generic and tribal revision of the North American Aleocharinae (Coleoptera, Staphylinidae). *Fieldiana Zoology*, 71: 1–289.
- Sharp, D., 1888. The Staphylinidae of Japan. *Annals and Magazine of Natural History*, (6) 2: 277–295, 369–387, 451–464.
- 柴田泰利・丸山宗利・保科英人・岸本年郎・直海俊一郎・野村周平・Volker Puthz・島田 孝・渡辺泰明・山本周平, 2013. 日本産ハネカクシ科総目録(昆虫綱: 甲虫目). 九州大学総合研究博物館研究報告, (11) : 69–218.
- 静岡県環境森林部自然保護室, 2005. 静岡県野生生物目録. 198 pp. 静岡県, 静岡.

(千田喜博 727-0301 庄原市比和町比和 1119-1 庄原市立比和自然科学博物館 気付)

#### 【短報】コルリアトキリゴミムシをアカバナカミナリハムシの集団より多数採集

コルリアトキリゴミムシ *Lebia (Lebia) viridis* Say, 1823 は北米原産のジュウジアトキリゴミムシ属 *Lebia* の小型種(体長は, 前頭から翅端までの長さが, 手元の標本で 3.3 ~ 4.2 mm) で, 体色は全体が黒色で黄緑色から青緑色の金属光沢を帯びる. わが国では 1980 年代後半より関東地方を中心に記録され, 現在は西日本でも生息が確認されている(中根, 1989; 吉田, 2019 ほか). アトキリゴミムシ類は一部の種でチョウ目やコウチュウ目等の種を好んで捕食することが知られているが, 本種についてもカミナリハムシ属 *Altica* の種との関連が示唆されており, 後で記すようにいくつかの観察例がある. 筆者は埼玉県の平野部において, アカバナカミナリハムシ *Altica oleracea* (Linnaeus, 1758) の集団周囲から多数のコルリアトキリゴミムシを採集したので報告する. 採集個体のデータは次の通りである.

13 ♂♂ 7 ♀♀, 埼玉県川越市安比奈新田安比奈親水公園, 4. VIII. 2019. 筆者採集・保管(図 1).

採集地は埼玉県南東部に位置する入間川河川敷内で, 環境はグラウンドやテニスコート等の運動施設周辺に芝生と河川林が広がり, 砂利敷きの駐車場脇には小川が流れ, その対岸は小規模の斜面林となり, 多くの昆虫類が生息する(図 2). 小川の水辺周辺の



図 1. コルリアトキリゴミムシ.



図 2. 安比奈親水公園の生息環境.

草地で昆虫類を調査していたところ、コルリアトキリゴミムシが高さ 20 cm 程度の草本類の葉上を素早く走り回る様子が見られた。この個体を採集し、さらに追加個体を求めその付近を丹念に調べたところ、この草地には北米原産のメマツヨイグサ *Oenothera biennis* (アカバナ科) が所々に生えており、その葉上にはアカバナカミナリハムシの成虫 (図 3) 及び幼虫 (図 4) が多数発生している状況が観察された (図 5)。そして、コルリアトキリゴミムシも同じ草の葉の付け根などにいくつか潜んでおり (図 6)、明らかにこのハムシに依存している様子であった。しかし調査当日は外気温が 40 度近い酷暑日で、関東地方でも熱中症で病院へ搬送される方が多く出るような状況であり、捕食行動等を確認するような長時間の観察は困難と判断し、見られた個体をとりあえず採集するにとどめた。

先に述べたように、コルリアトキリゴミムシの生態に関してはいくつかの報告があり、Say (1825) の原記載には「花の上にとても普通」と記されている。筆者の埼玉県内におけるこれまでの観察でも、秋季セイタカアワダチソウ *Solidago canadensis* (キク科) やミヤマヨメナ *Gymnaster savatieri* (キク科) の花上において、多くの個体を目撃している。また、Lindroth (1969) はアメリカにおいてコルリアトキリゴミムシをカミナリハムシ属 *Altica* の幼虫の集団から得たことを報告し、Kasahara (1991) はこれを引用して



図 3. アカバナカミナリハムシ (成虫)。



図 4. アカバナカミナリハムシ (幼虫)。

いる。さらに Capogreco (1989) はアメリカのフロリダ州において、*Altica foliacea* (LeConte, 1858) の幼虫と成虫の中からコルリアトキリゴミムシを見出し、本種の幼虫がこのハムシの蛹に外部寄生することを明らかにし、石谷

(2008) がこれを引用し詳しく紹介している。国内では吉田・初宿 (2009) が大阪府において、ヒメカミナリハムシ *Altica caeruleascens* Baly, 1874 との同時観察例を報告し、森・古巻 (2012) がこれを引用している。これらの報告はいずれもカミナリハムシ属 *Altica* の種に関連しているが、今回のアカバナカミナリハムシ集団からの観察例はコルリアトキリゴミムシが国内でも複数種のカミナリハムシ類に依存していることの確認となり、石谷 (2008) の「(国内でも) 複数の種を含むのか？」という問いに対しての答えになると考える。なお、今回得られたコルリアトキリゴミムシのうち半分ほどは未熟な個体であり、このことも本種がこの場所で発生している状況を物語っている。

末筆ながら、川越市の昆虫調査で日頃よりお世話になっている川越市の過昌司氏とかわごえ環境ネット会員諸氏に厚く御礼申し上げます。



図 5. アカバナカミナリハムシが多数観察されたメマツヨイグサ。



図 6. メマツヨイグサ葉上の陰に潜むコルリアトキリゴミムシ。

## 引用文献

- Capogreco, J. V., 1989. Immature *Lebia viridis* Say (Coleoptera: Carabidae): Bionomics, descriptions, and comparisons to other *Lebia* species. The Coleopterists Bulletin, 43: 183–194.
- 石谷正字, 2008. コルリアトキリゴミムシの生態. 昆虫と自然, 43 (12): 24–26.
- Kasahara, S., 1991. Occurrence of *Lebia viridis* (Coleoptera, Carabidae) in Tokyo. Elytra, Tokyo, 19: 124.
- Lindroth, C. H., 1969. The ground-beetles (Carabidae, excl. Cicindelinae) of Canada and Alaska, part 6. Opuscula Entomologica supplementum, 34: 945–1192.
- 森 正人・古巻 進, 2012. アトキリゴミムシ類の生態に関する覚書き. さやばねニューシリーズ, (6): 38–40.
- 中根猛彦, 1989. 移入種と思われるアトキリゴミムシの記録. 昆虫と自然, 24 (8): 33.
- Say, T. L., 1825. Descriptions of insects of the families of Carabici and Hydrocanhari of Latreille, inhabiting north America. Transactions of the American Philosophical Society, vol. 2. pp.1–109.
- 吉田浩史・初宿成彦, 2009. コルリアトキリゴミムシの淀川河川敷からの記録. Nature Study, 55 (6): 9.
- 吉田浩史, 2019. 神戸市とその周辺における分布拡大中の昆虫についての調査記録. きばりはむし, 41 (2): 32–35.

(新井浩二 355–0216 比企郡嵐山町むさし台 3–22–13)

### 【短報】岩手県で採集されたシロオビチビサビキコリの記録

シロオビチビサビキコリ *Adelocera (Brachylacon) difficilis* (Lewis, 1894) は、岐阜・静岡以西に広く分布するコメツキムシで (Kishii, 1999; 豊島ほか, 2015; 平井ほか, 2018), 常緑高木のシイやカシ類が多いところでよく見られる種である。北日本における採集例はほとんどなく、岩手県盛岡市下厨川東北農業試験場のデントコーン圃場に設置された黄色の昆虫誘因器で捕獲された個体が唯一あるだけである (河野・気賀沢, 1990)。岩手県の目録をまとめた岩手県生活環境部自然保護課編 (2001) は、河野・気賀沢 (1990) の記録を引用しているものの、「北日本に分布する形跡なし」とし、岩手県での生息には疑問を投げかけている。



Fig. 1. *Adelocera (Brachylacon) difficilis* (Lewis, 1894) from Iwate Prefecture, Japan.

筆者は、岩手県二例目となる個体を検することができたので、ここに報告しておきたい。

報告するにあたり、

標本をご恵与くださ

た東京都の青木淳一博士、文献や分布確認でご協力いただいた千葉県立博物館の斉藤明子博士と仙台市の伊藤智氏に厚くお礼申し上げる。

1 ex. (Fig. 1), 岩手県金ケ崎町永沢島の海上, 27. IV. 2017, 青木淳一採集 (筆者保管)。

今回、岩手県から本種が再発見されたことは、これまで疑問視されてきた岩手県での生息の可能性を示唆している。しかし、岐阜・静岡以西にしか生息していない本種が、関東を飛び越えて東北の岩手県に隔離分布するというのは、不自然に感じざるを得ない。静岡以東で最も生息の可能性の高いと考えられる神奈川県でも、また、温暖でシイ林が良く残されている千葉県でも、本種の生息は確認されていない (平野, 2018; 鈴木・山崎, 1999)。このようなことから、寒冷な岩手県にもともと生息していたとは考えにくく、本来の生息地から植物などと共に運ばれた可能性が高いように思われる。

## 引用文献

- 平井剛夫・福井順治・諏訪哲夫編著, 2018. 静岡県昆虫集録—駿河の昆虫編—. 672 pp. 静岡昆虫同好会.
- 平野幸彦, 2018. コメツキムシ科 Elateridae. 神奈川県昆虫誌 2018, 2: 392–405. 神奈川昆虫談話会.
- 岩手県生活環境部自然保護課編, 2001. 岩手県野生物目録. 492 pp. 興版社, 盛岡.
- Kishii, T., 1999. A check-list of the family Elateridae from Japan (Coleoptera). Bulletin of the Heian High School, Kyoto, (43): 1–144.
- 河野勝行・気賀沢和男, 1990. デントコーンを加害したコメツキムシ類. 北日本病害虫研究会報, 41: 147–159.
- 鈴木 互・山崎秀雄, 1999. 千葉県のコメツキムシ科甲虫. 千葉県動物誌: 602–612. 文一総合出版.
- 豊島健太郎・青木哲郎・木野村恭一・桐山 功・野平照雄・高井 泰, 2015. 岐阜県昆虫目録 III コウチュウ目. 786 pp. 岐阜県昆虫分布研究会.

(鈴木 互 211–0031 川崎市中原区木月大町 6–1 法政大学第二高等学校生物科)

### 【短報】静岡県におけるナガタムシ属 2 種の記録

静岡県からはこれまでに 78 種のタムシ科甲虫が記録されてきた (多比良, 2004; 平井ら, 2018; 酒井, 2018; 笹倉・阿閉, 2018)。筆者は、2018 年 7 月および 8 月に静岡県において記録がないナガタムシ属 2 種を採集したので、静岡県初記録としてここに報告する。本稿により静岡県のタムシ科は 80 種になる。以下、採集・保管は全て筆者である。